

写真展「ここに生きる、ミャンマー難民と山岳民族の今日～大学生の人生を変えた、9日間の記録」

1月26日～30日 @ひょうご国際プラザ交流ギャラリー

(公財)兵庫県国際交流協会様の多大なご支援ご協力のもと、開催5日間で延べ108名の方にご来場いただきました。実際に現地を訪れた学生と一緒に巡る「ガイド付き写真展」は、自然に世代を超えた交流を生み、連日活気あるイベントとなりました。また会場のひょうご国際プラザ交流ギャラリーでは、学生による主催は初めてとのことで、学内外のお友達など若い世代の来場が多かったのも特長的でした。

学生ガイドを務めつつ、来場者の話にも素直に耳を傾けている皆さんを、私たちスタッフは好感をもって見守っていました。「多文化共生」も、まずは相手を知り理解しようとする、話を「聞く」ことから始まるのではないのでしょうか。

それでは共に主催した立命館5名の皆さんの、イベント後の感想をご紹介します。

---

足を運んでくれた皆さんが本当に優しく、かっこよく、尊敬できる方々で、それぞれの視点で語ってくれる時間が何より楽しかったです。

国際問題は、明日明後日に解決するような簡単なものではありません。だからこそ、まずは「関心を持つ」という入り口に立ってくれたこと、そしてわざわざ会場まで来てくれたというその「優しさ」が、停滞した現状を動かす一番の原動力になると信じています。

まずは目の前の現実と一緒に考え続けること。そんな温かい繋がりを、これからも大切にしていきたいです。

— 和田 嶺

---

5日間本当に充実していました。来場者の皆さまに自身の経験をお話しする中で、当時感じたこと・考えたことを整理しながら、新たな興味や疑問が湧きました。さらには、皆さまの経験や知見を伺うことで、私自身も多くを学ばせていただきました。

昨今の排外主義の高まりに心を痛めていましたが、今回の写真展を通して海外の問題に関心を持ち、また日本に暮らす外国籍の方々に寄り添おうとする人々がこれほど多くいることを実感しました。そのことが、今後の活動や国際協力への道を歩む上で大きな後押しとなりました。今回ご協力いただいたミャンマー-KOBEの皆さま、兵庫県国際交流協会の皆さま、本当にありがとうございました。

— 岸本杏菜

---

最高でした！！

みんな真剣に写真を見て、質問もしてくれて、そんなもっと知りたいと思ってくれた姿勢に感無量でした。

まだまだ大きなアクションを起こすほどの力は持ち合わせていませんが、こんな風に少しずつ良い方向に向かって歩を進めさせることが、今の自分たちにできる国際協力のあり方の一つだなと感じました。

本当にありがとうございました！！

— 森 優斗

---

この写真展の5日間は、未来につながる時間だったと感じています。

私達が現地で知った現実や感情をミャンマー-KOBE の皆様や来場者の皆様と共有できたことで、私達が実際に足を運んだことの意義がさらに深まった気がしています。

この輪を少しずつでも広げていけば、ちっぽけに見えるような行動もより良い未来を築く大きな一歩に繋がっていくと私は信じています。素敵な機会をくださり、ありがとうございました！

— 三原静香

---

写真展の期間中、多くの方にご来場いただき、作品を通して皆様と多様な思いや意見を交わすことができました。

当初、この写真展は「国際協力を考えるきっかけ」を提供することを目指していましたが、実際にはすでに高い関心を持つ方々が多く、皆様の貴重なご経験を伺うなかで私自身が学ばせてもらう場面が多々ありました。

まさに「双方向」な対話の場となったことで、私自身の国際協力に対する考えもより深まったと感じています。このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました！

— 朝倉康太

---

改めて、ご来場くださった皆さま、イベント開催や広報にご支援ご協力くださった皆さま、温かく見守り応援してくださった皆さまに、心より御礼を申し上げます。

特定非営利活動法人ミャンマー-KOBE  
立命館国際関係学部・研究科「Hay Hay Aungsan」



立命館国際関係学部・研究科  
「Hay Hay Aung San」の皆さん



イベントが終わり  
大きなハートいっぱい詰まった  
来場者のメッセージと共に